

令和4年度 第2回 八尾市史跡保存活用審議会

日時：令和4年9月30日（金）15時～17時

場所：八尾市役所 会議室 603

【出席者】

(委員)

出席5名、欠席3名

(オブザーバー)

大阪府教育庁文化財保護課職員2名

(事務局)

魅力創造部部長、観光・文化財課4名

(傍聴)

0名

【議事内容】

- ・史跡由義寺跡の保存・活用について
- ・史跡由義寺跡整備基本計画の策定

【配布資料】

- ・史跡由義寺跡整備基本計画（令和4年度第2回審議会案）
- ・令和4年度第1回八尾市史跡保存活用審議会 主な意見と対応
- ・令和4年8月文化庁意見と対応
- ・発掘調査成果に関する報道提供資料

【議事録】

整備基本計画：第5章について（第1節～第5節）

（事務局：資料に基づき整備基本計画第5章第5節まで説明）

- A 委員（事務局説明）：塔基壇を分かりやすく説明するためには、調査成果と他の古代寺院の事例を踏まえつつ、壇上積基壇である復元案Aを基本に考えてはどうか。柱間の復元に基づくのであれば、立体表現の礎石を配置してはどうか。柱間の復元はもう少し検討が必要である。河内国分寺で表現されている四半敷の範囲や礎石内の建物部分、礎石の復元などについて、検討してほしい。整備基本計画では塔基壇の復元という方向性までで、詳細の復元は基本設計で議論してはどうか。
- B 委員（事務局説明）：P73の塔基壇復元の根拠をもう少し整理してほしい。「調査に基づいて特定できる」「復元できる」「事例から推定復元できる」といった文言で整理してほしい。壇上積での復元には理解あるが、整備基本計画では一覧表で復元の評価を文言として残してはどうか。
- C 委員：塔基壇の発掘調査で四半敷の敷きの磚は出たか。
事務局：塔基壇の西側で長方形の1点だけ出土しています。
- C 委員：塔基壇に敷いていた可能性はあるか。
- D 委員：今となつてはその磚が旧基壇か後の基壇のものか分からない。
- C 委員：敷いていたらかなりの量が出てくるはずだが、1点しかなく、しかも長方形である。基壇の上は敷き磚ではない方がよい。

D 委員：基壇は壇上積の A 案として、その根拠をどこまで固められるか。凝灰岩の破片が出ていたと思うが、束石として使えそうなものはないという判断か、あるいは可能性はあるか。

事務局：敷石として加工されたものは 2 点だけしか見つかっていません。他に削られたのを何点か確認しています。

D 委員：束石・羽目石が見つかることは中々ないので、敷石があるのでよしとするかどうか。

C 委員：壇上積基壇の復元でよいと思うが、柱間で規定されて束石や階段の位置が決まる。上の建物のイメージがないと、基壇は造ることができないと思う。この柱間の位置がもとになって、階段の位置、束石の位置が決まってくるので、そういう形で検討するのがよい。

D 委員：従来から階段についての議論はあったが、階段候補位置はどういう根拠によるものか。

事務局：凝灰岩の溝が階段らしい幅で見ついていることから、階段の土は盛らずに基壇を設計した後に、踏石を積み上げたような構造の階段だと考えていました。今回、東側の調査区で階段裏込めの土が見つかったことから、他の 3 方も同様の構造であったと考えています。

D 委員：耳石のある階段が必要だと思うが、復元根拠が得られているということでよいか。

A 委員から壇上積基壇で復元してはどうかという意見だが、一定程度の根拠はあるが、具体的な形までは揃っていない状況だと思う。

事務局：由義寺は凝灰岩製の壇上積基壇である可能性が高いが、実際の復元にあたっての石材の選択はどう考えたらよいでしょうか。百濟寺では、凝灰岩は脆く磨滅するというので、花崗岩の切石を使っています。平城宮跡の大極殿は、凝灰岩ではなく竜山石を使用していると聞いています。壇上積基壇で復元する場合の石材の代替についてはどうでしょうか。

D 委員：出土した凝灰岩が現在流通して使われているのかどうかということがある。竜山石は今も使われている材料である。花崗岩でもどこのものを使うかで議論がいろいろあると思う。

C 委員：花崗岩は違いが分かってしまうので、竜山石の方がいいと思う。

D 委員：花崗岩を使った建物基壇は存在するので、誤解を与えかねない。なるべく見た目が凝灰岩に近い石の方がいいと思う。出土した石は軟らかくて脆い。10 年 20 年経って劣化するとよくないので、耐久性は考えた方がよい。

C 委員：凝灰岩だと角が丸くなっていくと思う。

D 委員：できるだけ花崗岩ではない石ということで、意見が一致していると思う。

上面の表現について、四半敷で覆ってしまうのか、土間のような土系舗装にするかは、一定の議論がいろいろあると思う。

E 委員：他所はどうしているか。

D 委員：河内国分寺は残っていたが、コンクリートで固めており、作り物っぽく見える。

C 委員：百濟寺は、土間たたきをしている。敷石をイメージしていたが、官寺でも土間たたきの例がある。もしかすると土間たたきの方が多かったかもしれない。敷石が出ているからとこだわらなくてもいいと思う。根拠がないなら敷石にするのはよくない。敷石を入れるには敷石があったことの証明がいる。現状では土間たたきがいいと思う。

D 委員：前回の議論だが、基壇の上面で、下層の古い基壇を輪郭だけでも示せないか。基壇の復元案の図に由義寺と弓削寺の基壇規模の想定がある。基壇の上面で、弓削寺の規模を土の色の違いなどで薄く示し、ガイド等が説明して初めて分かるようにするといい。

E 委員：私も賛成である。知っている人が見たら分かるようにするといい。

D 委員：ボランティアガイドに土の色の違いを説明してもらい、旧基壇があったが称徳天皇の時に大きな塔にしたというストーリーを説明できるようになるといい。せっかく調査で明らかになったことなので、視覚で訴えるものが多少ほしい。目立たない程度に薄く分かったといい。

F 委員：上だけ透明にして、下にこういう基壇があったとするのはどうか。どこの基壇も同じように見えるので、八尾は他とは違うとなればいい。

D 委員：アクリル板で覆って、絵で示すのもありかもしれない。塔の下に建物基壇があったという例はほぼなく、塔に建て替えたという大きなストーリーがあるので、アピールできるといい。デジタルでもいいので表現してほしい。文化庁からはある1時期での整備という指導があるが、称徳天皇時代の塔を復元したうえで、何らかの方法で過去を映し出せるように工夫してほしい。西側の緩衝帯について、結構な斜面になると思うが、安全対策はどうか。

事務局：既にフェンスがあり、利用者が落ちることはありません。北側の斜面上部にはフェンスがないので、整備する必要があると考えています。

D 委員：植栽によっては落ち葉がたまる可能性があるので、不具合を想定しておいた方がよい。

F 委員：植栽はどうするのか。由義寺はこれという樹木はないか。

事務局：文化庁に利用者の木陰となる樹木を提案しましたが、寺院境内にあまり植えてほしくないと言われました。休息の場所は欲しいと考えています。

D 委員：隣地との目隠しにもなると思う。歌垣にちなんだ樹木があればいい。

文化庁が指摘する塔基壇復元の方向性については整理することができたが、緩衝帯の表層材については少し技術的でイメージしにくい。

事務局：コンクリート舗装は管理面でメリットがありますが、史跡には馴染まないと考えています。土の色を保持して景観に馴染み、一定の耐久性のある土系舗装にしたいと考えています。

D 委員：塔基壇の平場と同じ土系舗装だと、遺構が下がっていると誤解されないか。

事務局：色を変えるなどの対応が考えられます。

D 委員：コンクリート舗装は反対である。意見が出にくいと思うので、市で検討してほしい。

整備基本計画：第5章について（第6節～第15節）

（事務局：資料に基づき整備基本計画第5章第5節まで説明）

D 委員：遺構の近くに背の高い看板があると、写真撮影の邪魔になる。看板抜きでいい写真が撮れるように配慮してほしい。地面に置くような低いものだといい。

史跡入口に看板が並ぶのは、遺構を見るのに影響があるので、見せ方を工夫してほしい。

文化財保存活用地域計画の関連文化財群のことを書いているが、それらの中ではシンボルやデザインは統一してほしい。

F 委員：解説板が基壇から離れすぎるとよくないので、適度な距離で配置してほしい。細かい字にするのもよくない。

D 委員：遺構と離れていて説明板を探す時もある。また、目立たないようにしたことで誰も読まなくなるということもある。

C 委員：距離感の下野薬師寺跡が参考になる。今回は引きがあるので、あまりくっつけない方がいい。

D 委員：透過パネルを使った視点場が決まるなら、主要な説明をすぐ横に配置するなど、どこに立ってどう見てほしいか少し検討してはどうか。仮の案内板を置いて、シミュレーションをすればよい。

- C 委員：透過パネルは角度によってずれるので好みではない。劣化も早いと思う。立体的に見せるなら、基本はAR・VRで見せるのがいいと思う。
- D 委員：河内寺ではかなり活用しているが、見える場所への誘導が必要である。スマホが普及しているのでスマホでできることをするといいい。
- E 委員：解説板が多すぎないか。ガイダンス施設もあるのに、ここまで必要か。
- D 委員：ガイダンス施設がいつ整備できるかということもある。ガイダンス施設がない間は説明板を充実しないとイケない。
- 事務局：ガイダンス施設の整備時期は未定です。史跡指定地に来た人が理解しやすい説明板の配置がいます。入口付近の連続したサインなど整理したいと考えています。
- D 委員：1つのサインで複数の機能を持たせることもありえる。ガイダンス施設ができるまでの仮設のサインがあってもいいと思う。東エントランスと南エントランスに全く同じサインがあるが、近い距離なので1つでいいように思う。パンフレットを取れるようにしているところもあるので、あるとありがたい。個々のサインの必要性について再検討して、数を減らしてもらいたい。
- E 委員：四阿はどうなったか。
- 事務局：文化庁からは、設置はできるが、瓦葺はやめてもらいたいと言われてます。
- D 委員：腰掛けのところが必要である。夏の暑い時に歩くのは過酷である。
- F 委員：雨宿りにも必要である。
- D 委員：学校利用もあるので、四阿は2箇所ほどあればいい。塔基壇の復元がメインなので、それ以外が目立たないようにするのが基本だと思う。心地よい環境になると、利用が増えると思う。
- E 委員：木陰が欲しい。
- D 委員：木陰がなかったら行こうという気にならないと思う。よく利用されるのは近くに住む人である。散歩するのに気持ちよい場所になるといい。行事にも使えるといい。そのためには、木陰は必要だと思う。
- G 委員：木陰とベンチが欲しい。
- F 委員：春夏秋冬に色づく花もあるといい。
- C 委員：花は人を寄せる。今城塚古墳も花を植えて人がよく来るようになった。
- D 委員：1から10まで行政がなくていい。地域の花好きの方に声をかけてもいい。できれば万葉にちなんだものがあるといい。
- F 委員：万葉の花は色々ある。
- C 委員：視点場②と③の間はラジオ体操などで使う空間になると思うが、塔の西側の空間は使ってもらえないがする。西側住宅も考慮しないとイケないが、花畑にするなど考えられないか。
- D 委員：整備計画に盛り込むより、「地域の魅力を創出する空間としての活用の推進」で、「万葉の花を見られる場所をつくるなどして地域の憩いの場になるような工夫をする。」といったような一文を入れておいて、具体的なことは地域の意見を吸い上げて進めるのがいいと思う。整備計画で決めずに、自由に活用できる工夫があるといい。
- G 委員：ガイダンス施設で展示できるスペースはどのぐらいあるか。
- 事務局：敷地が小さいので展示ケースは大きくしていません。様々な瓦を効果的に展示したいと考えています。
- D 委員：学術的には塔基壇の復元根拠の話が必要である。本物の石材などはガイダンス施設で示しても

らいたい。

G 委員：ガイダンス施設で説明し、公園に行く流れになると思う。

D 委員：ボランティアガイドがいるなら、事務室や待機室があるといい。

G 委員：看板もここに1つあればいい。

D 委員：ガイダンス施設を見てから史跡に行くということを徹底するといい。

C 委員：床下展示は塔基壇の検出状況のイメージか。発掘調査の臨場感が出ていい。

事務局：写真展示も考えています。

C 委員：写真の方が遺構の上ののっているような感じになっていい。

E 委員：写真なら地下展示でなくていい。

D 委員：説明する時に便利である。

F 委員：大阪歴史博物館は臨場感があっていい。

C 委員：大阪歴史博物館は本物の遺構を見せている。

E 委員：写真は実物大にできるか。

事務局：スペースが広くないので難しいです。

E 委員：瓦は触れるようにしてはどうか。

B 委員（事務局説明）：活用について、由義寺の年表とからめて、周年的なイベントを開催することを明記してはどうか。

D 委員：2070 年を大きな節目として、2040 年、2050 年、2060 年と開催できるといい。

C 委員：うまくいけば 770 年の 10 年単位でなくても、毎年開催できるイベントに育つといい。

D 委員：最初にお金を使いすぎると息切れしてくる。学校を巻き込むなど長く続く工夫がいる。由義寺部や歌垣部など部活動ができるといい。

E 委員：歌垣音頭などができるといい。

C 委員：3 月 28 日は春休みで丁度よい。

D 委員：これまでも学校を巻き込んだ活用をしているので、一過性でなく恒常的にできるようになるといい。最初は盛り上がるがしばらくすると熱が下がってしまうので、その対策がいる。

F 委員：コンテストもよい。

G 委員：川柳大会などできるといい。

E 委員：そういう時に花があるといい。

D 委員：3 月終わり頃に咲く花があるとよい。

F 委員：歌垣があまり知られていないので、再現しつつ、一般の人にも浸透していくといい。

D 委員：活用の場としては、塔基壇の北側に広場があるのでうまく使えばいい。

事業計画についての課題が出ていたが、議論は必要か。

事務局：事務局で検討して、次回審議会での議論としたいと思います。

D 委員：必ずしも令和 7 年度の暫定公開を目指すわけではないということか。できれば工事中でも塔基壇整備の現場公開のような機会があるといい。建造物では修理現場の公開事業がある。日を決めて、案内付きで市民に見てもらおうといい。工事期間中は閉じたままの状態だと、由義寺はどうなっているのかとなりかねない。工事期間中の何かしらの市民公開を考えるといい。

F 委員：第 2 章第 2 節の歴史的環境の修正の解釈について、「保良宮を北京にならって」は、「保良宮を北京と称したのにならって」である。「由義宮を中心とする西京とした」について、続日本紀で

は「由義宮を西京とする」と出てくる。京域をどの程度にしたか分からないが、「由義宮を西京と名付けた」としてはどうか。その説明として「平城京の西に位置した由義宮を西京と名付けた」とするのはどうか。

D 委員：平城京の説明がないと、なぜ北京、西京か分からない。

F 委員：「1年足らずで造営は中止となった」は、もう少しぼやかした方がいい。「由義寺、由義宮と西京の実態」は、「由義寺（西京）の実態」あるいは「由義宮の実態」としてはどうか。下部の「そして由義宮さらに西京」も括弧にするか、由義宮にした方がいいと思う。

第3章第2節 史跡由義寺跡の調査成果の修正で、「由義宮を中心とした西京の位置づけを宣言した」は、「由義宮の位置づけを宣言した」などとした方がいいと思う。「西京」とは、保良宮の北京に対応した」は、「西京」とは、保良宮の北京を意識して」の方がよい。また、離宮ではなく平城京に匹敵するものだと分かるように西京としたので、平城京との位置関係を重視した書き方にすべきである。

D 委員：離宮ではなく平城京を意識したことが大事だと思う。小中学生に八尾の首都になったかもしれないと言うのはどうか。子ども達には知ってほしい。

C 委員：「既往の発掘調査位置図」で、史跡指定範囲内にある塔跡の赤いトレンチはいらないと思う。後ろに細かい図がある。赤い線とトレンチが同じ色なので、色を変えてほしい。

事務局：塔基壇の文字色だけを変えて、包蔵地の広がりが見えるような図にした方がいいかもしれません。

C 委員：トレンチを示すより、ここが塔だと示した方がいい。

「塔基壇検出遺構平面図」に今年の調査区が入っていない。縦の薄いトーンは何か。

事務局：塔基壇が見つかる以前に、上層の版築層を確認したところです。

C 委員：上層の版築層であれば他にも見つかっているのではないか。

事務局：壁断面で版築が見つかっているということで報告しています。

C 委員：最初の調査の時に出了た版築ということだが、あとの調査でたくさん出ているので表示しなくていい。入れるとしても、凡例で示さないといけない。

D 委員：「既往の発掘調査位置図」について、今回の調査で、弓削寺が史跡指定地内にもかかってくるということが分かったと思う。弓削寺の包蔵地を史跡指定地を含む形に変えた方がいいと思う。

F 委員：そういう意味では説明が1つも無い。第1章第1節で「官宮寺院として塔が造営された」とあるが、下層の弓削寺との関連を一言入れると親切である。

D 委員：保存活用計画を踏襲されているが、そのままでよいか。今回の調査ともう1回の調査を踏まえて、前半部分を見直す必要があると思う。

F 委員：第2章第1節の図は上の文章とあまり合わない。例えば、2,3段落目の「陸路としては、難波宮と平城京を結んだ渋川道が…」とあるが、図では見えず、不要な情報が多い。

第2章第2節 歴史的環境で、「中世以降の由義寺の様相は不明であるが、発掘調査の状況からは田畑が広がり、」はおかしいので、「不明である。」で切った方がいい。

同じく第2節の交通環境等で、志紀駅から徒歩7分という記載があるが、恩智駅からの徒歩時間はいらぬか。最寄り駅の恩智駅と志紀駅の文字は大きくするといい。

第3章第4節の寺・宮跡と関係するとみられる小字名の図で、北側に「宮前」「宮東」「古屋敷」があるが、この説明はいらぬか。

事務局：「古屋敷」は2つあり、「宮」は神社の宮もありえ、確定するのは難しいです。

事務局：弓削寺の包蔵地範囲の変更についてはいかがでしょうか。

大阪府：手続き的には間に合うと思うが、どの範囲にするか。

D委員：府・市で協議して、間に合うなら反映するとよい。

事務局：弓削寺の円形が史跡由義寺跡をとりこむような形になるかと思います。大阪府と範囲変更について協議します。

D委員：本来四角だが、調査で分かったことによって包蔵地の範囲は改定すべきである。取扱いは変わらないと思う。

その他

(事務局：報道提供資料について説明)

G委員：11/11に曙川コミュニティセンター主催で30名程度の見学会を開催する。11/27には、曙川東小学校の生徒を中心に、由義寺跡で遺跡発掘体験を100名規模で開催予定である。

D委員：地域・学校が動くのはいいことである。全体としていい方向に動いている。

事務局からの連絡事項、観光・文化財課課長挨拶にて閉会

以 上